



長沼小学校

長沼中学校

学校だより

特別号

令和5年9月15日発行

- ◇ 長沼町小中一貫教育重点テーマ「一人一人の学びをしっかりと支え、誰一人取り残すことのない教育の実現」
- ◇ 目指す児童・生徒像 「長沼を愛し、学び・行動し・協働して未来を切り拓く人」

令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果と分析 長沼町立長沼小学校

文部科学省が5月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせいたします。小6と中3を対象とした調査です。全体と各教科について、学年全体の結果を分析したところ、以下のようになっています。

1. 各科目の平均正答率

	国語	算数
本校平均	63%	62%
R5 全道平均	66%	61%
R5 全国平均	67.2%	62.5%

2. 調査結果から見られる成果と課題

国語科

☆成果

【知識及び技能】

- ◇言葉の特徴や使い方に関する事項において、漢字を文の中で正しく使う問題で比較的高い正答率が見られた。

【思考判断表現】

- ◇(A 話すこと・聞くこと)に関する問題では全ての問題で全国正答率よりも高い正答率をとることができた。話し手が伝えたいことや自分の聞きたいことの中心を捉え、選択問題を解くことができている。ペア・グループ学習等で話し合いの目的や意図を意識して活動してきた成果と考えられる。

●課題

【知識及び技能】

- ◆情報の扱い方に関する事項において全国平均よりも10ポイント近く正答率が低くなっている。情報と情報の関係をまとめて表現することに力を入れていく必要がある。

【思考判断表現】

- ◆(B 書くこと)に関する事項において全国平均よりも10ポイント以上低い正答率である。指定された条件にそった表現方法の指導が必要である。また、問題に正対した文末表現ができるように指導していく必要もある。

算数科

☆成果

【知識及び技能】

- ◇加法と乗法の混合式の計算、表から必要な数値を読み取る問題では、全国平均より5ポイント以上高い正答率であった。計算問題や穴埋め問題などの短答式の問題形式で正答率が高くなっている。

【思考判断表現】

- ◇式が表している事柄と場面を結びつける問題を解くことができ、各単元の応用問題等に取り組んできた成果だと考えられる。「思考・判断・表現」を問う全7問の合計正答率は、全国平均より0.2ポイント高い。算数TTや習熟度別学習の成果と考えられる。

●課題

【知識及び技能】

- ◆切って開いた三角形を正三角形にする問題の正答率が低かった。長い問題文の意図を理解することに課題があり、日常から問題にじっくりと向き合う習慣をつける必要があると考える。また、切り取ってできた図形の名称と特徴を答える問題の正答率も低かった。図形領域についてはさらに繰り返し学習することで定着を図る必要がある。

【思考判断表現】

- ◆知りたい数量の大きさの求め方とその説明を記述する問題の正答率が低かった。順序よく考え、表現する活動を学習活動の中に取り入れていく必要がある。

生活・学習状況

【日常生活・学校生活全般】

◆80%を下回っている項目

☆ほぼすべての児童が肯定的な回答(90~100%)

- ・朝食を食べている ・先生は良いところを認めてくれる ・先生は分かるまで教えてくれる ・人が困っているときには、進んで助けている
- ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う ・人の役に立つ人間になりたい ・友達関係に満足している

◇同じくらいの時刻に寝ている(85.3%)

◆自分にはよいところがある(79.6%)

◇学校に行くのは楽しい(84.1%)

◇自分と違う意見について考えるのが楽しい(85.2%)

【家庭学習と読書】

◆自分で計画を立てて勉強している(75%)

◆授業以外の時間に1日1時間以上学習している(36.4%)

【授業・ICT】

◇授業では課題解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいた(87.5%)

◇学級の友達との間で話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている(81.8%)

◇学習の中でICT機器を使うのは勉強のために役立つ(95.5%) ◇授業でコンピュータなどのICT機器をほぼ毎日活用した(86.4%)

◆総合的な学習の時間では自分で課題を立て情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる(71.6%)

◇道徳の授業では自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組んでいる(85.3%)

◇学習した内容について分かった点、分からなかった点を見直し次の学習につなげることができている(80.7%)

◇国語の授業で勉強したことは将来社会で役に立つ(96.5%) ◇算数の授業で勉強したことは将来社会で役に立つ(96.6%)

本校生徒の学習・生活の傾向

- ・学校生活全般に肯定的な回答が多く、概ね学校生活、友達関係に満足していることが読み取れる。また、学習したことが将来に役立つと考える子供が多く、将来を見据え学習の大切さ・必要性を感じている子供が多い。自尊意識が高まるよう、継続して指導していくことが大切である。
- ・「ICTをほぼ毎日活用した」、「ICT機器を学習で活用することは役立つ」と回答している子供が多い。各学級での授業での活用、キュービナ等の家庭学習での活用が進んでいる様子が見える。今後も継続して活用するとともに、さらなる効果的な活用について考えていく必要がある。
- ・家庭での学習時間が目標時間に到達できていない。義務教育9年間を見通し、小学校段階での目標時間が達成できるよう家庭と連携を強化し、継続的に指導していく必要がある。

1. 各科目の平均正答率

	国語	数学	英語
本校平均	69%	47%	42.5%
R5 全道平均	69%	49%	44%
R5 全国平均	69.8%	51%	45.6%

◇平均無解答率

国語 3.4%

数学 7.4%

英語 5.6%

◇正答率30%以下の生徒の割合

国語 8.8%

数学 29.6%

英語 37.1%

2. 調査結果から見られる成果と課題

国語科

☆成果

【思考力・判断力・表現力】のうちA「話すこと・聞くこと」において、目的や内容に応じて質問の内容を検討したり、要旨を捉えることを問われたものについては、比較的高い正答率が見られた。また、言葉の意味を問う問題においても、文章内容に即して、適切なものを選択することができていた。インタビューを題材にした問題や、文章の比較において、じっくりと内容を把握しながら、情報を整理する力が一定程度身につけてきているものと考えられる。また、無回答率が低く意欲的な面も見られた。

●課題

【思考力・判断力・表現力】において、成果に記述した通り、内容理解までは定着しつつあるが、理解した情報を提示された条件（目的に沿って自分の考えをまとめる、理解したことを知識や経験とつなげる、根拠を明確にする）に沿って、文章表現をすることに対応することができていない生徒が多くいた。日常的に条件を整理しながら文章表現に取り組む活動などを多く設定しながら、表現力の向上に努めていきたい。

数学科

☆成果

「知識・技能」のうち、A「数と式」において高い正答率が見られ、基本的な計算方法や法則は理解している。また、D「データの活用」においては、四分位範囲の意味を理解し、正確に求めることができていた。記述式の問題の正答率が全体的に低かったものの、図形の性質を構想に基づき、正しく証明する力が身につけていた。

●課題

「思考・判断・表現」のうち、C「関数」やD「データの活用」において、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が著しく低い。また、A「数と式」の、結果が成り立つ前提を説明する問題は無回答率が25.4%と最も高かった。類似問題の結果を振り返り、新たな考えや成り立つ事柄を見いだすことが苦手であると考えられる。授業のなかでも、解き方をただ記憶するだけでなく、それらが成り立つことを根拠を明らかにしながら説明する機会を設けていきたい。

英語科

☆成果

『聞くこと』の領域においては、簡単な情報を正確に聞き取ることが概ねできており、正答率の高い項目が見られた。ALTやJTEとの英語でのやり取りやデジタル音源を使用した音声練習、また、ペア・トークなどの会話活動で得た知識や技能が表れたと考える。

●課題

最も憂慮される課題は、「平均無回答5.6%」と言う結果であろう。選択肢が設けられた項目では今までの学習知識をいかして正解を導き出そうとしているのに対して、1つのトピックに対して自ら内容を考え、英文を作成していくという課程を放棄していることが考えられる。「思考力・判断力・表現力」の獲得のためには「主体的に学習に取り組む態度」の養成にさらに取り組んでいく必要がある。

2つめに重要なのは、正答率30%以下の生徒が37.1%とかなり高いことである。言語学習の要である反復練習が不足していることや英語という教科そのものに苦手感を示す生徒が多い印象があり、我々の授業改善そのものが課題とも感じている。第2言語を習得する喜びや、その成果から来る達成感を持たせ、自分から調べてみようと思う姿勢や相手の発表を聞いてそのよいところを学んでいこうとする姿勢を構築していくことが大切である。

生活・学習状況

☆ほぼすべての生徒が肯定的な回答（90～100%）

- ・朝食を食べている ・毎日同じ時刻に起きている ・先生は良いところを認めてくれる ・自分で決めたことはやりとげようとしている
- ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う ・人の役に立つ人間になりたい ・友達と協力するのは楽しい ・国語の勉強は大切な
- ・学習の中でICT機器を使うのは勉強のために役立つ ・道徳の授業では自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組んでいる

◇自分には良いところがあると思う（81%）

◇将来の夢や目標を持っている（74%）

◇人が困っているときは進んで助けている（85%）

◇学校に行くのは楽しいと思う（82%）

◇授業でコンピュータなどのICT機器をほぼ毎日活用した（59%）

◇授業中に自分で調べる場面でICT機器をほぼ毎日活用した（30%）

◇授業では課題解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいた（81%）

◇学級の生徒との間で話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか（84%）

◇学習した内容について分かった点、分からなかった点を見直し次の学習につなげることができていますか（82%）

◇総合的な学習の時間では自分で課題を立て情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（80%）

◇国語の授業で勉強したことは将来社会で役に立つ（89%）

◇数学の授業で公式やきまりなどを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか（84%）

●平日1日あたりテレビゲームをする時間は2時間より少ない（36%）

●家で計画を立てて勉強していますか（66%）

●学校の授業時間以外に、普段1日1時間以上勉強する（48%）

●土日など学校が休みの日に1日1時間以上勉強する（24%）

本校生徒の学習・生活の傾向

- ・自尊意識、規範意識ともに高い生徒が多く、将来の夢や目標を持ち前向きに過ごす生徒が多い。また、各教科、道徳、総合的な学習の時間、学級活動においても主体的に取り組もうとする生徒も多い。
- ・ほぼ全ての生徒が「ICT機器を学習で活用することは役立つ」と回答している。また、授業中に「ほぼ毎日活用した」と6割程度が回答しており、ICT機器を活用した授業を推進している成果が表れてきていると考える。今後は、個に応じた活用など、さらに有効な活用方法について検証していくことが必要である。
- ・家庭での学習時間が少なく、ゲームを1日2時間以上する生徒も多い。家庭で計画を立て勉強している生徒は全体の66%程度であるが、実効性のある計画にはなっていないと考える。家庭学習については、生徒にタイムマネジメント力を身につけさせ、家庭や小学校との連携を強化するなど、継続的に指導する必要がある。また、自ら主体的に学ぶ生徒の育成に向けた授業改善が重要となる。